

外為ウィークリービューⅡ 欧州編

先週までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2011/08/08

米国情下げ・欧州債務懸念の行方に注目

通貨ペア	基調		ページ数
<a href="#">ユーロ/円</a>	↘	世界景気の減速懸念が重しに 予想レンジ: 108.20 ~ 114.00円	2-3
<a href="#">ユーロ/ドル</a>	→	弱気材料にの綱引きで・・・ 予想レンジ: 1.4050 ~ 1.4550 ドル	4-5
<a href="#">ポンド/円</a>	→	BOEインフレレポートに注目 予想レンジ: 124.00 ~ 131.00 円	6-7
<a href="#">ポンド/ドル</a>	→	英米の材料を見比べながら 予想レンジ: 1.6180 ~ 1.6600 ドル	8-9
<a href="#">経済指標 カレンダー</a>		一週間の予定を一覧で表示	10-11

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

# EUR/JPY

## ユーロ/円 8/1～5までの主な推移



<p><b>8/1</b> Monday</p>	<p>米オバマ大統領が、民主・共和両党の指導部が債務上限引き上げと歳出削減策について合意したとの声明を発表した事を受けて日経平均株価や時間外のNYダウ平均先物が堅調に推移すると、ユーロ/円は112.22円まで上昇した。しかしその後、欧州時間に入ると債務不安を背景にイタリアやスペインの国債利回りが上昇した事を嫌気してユーロ売りが優勢となった。さらにその後米7月ISM製造業景況指数が予想を下回った事を受けて、米国景気の減速懸念が強まると、堅調に推移していたNYダウ平均株価が急落。ユーロ/円は108.71円の安値を付けた。(①)ただ、NY時間終盤に、日本経済新聞電子版が「日本政府が円高是正へ介入準備」などと報じると、ドル/円の反発とともにユーロ/円も110円台まで値を戻した。</p>
<p><b>8/3</b> Wednesday</p>	<p>スイス中銀が緊急利下げを発表し、スイスフラン高に対する強い懸念を表明すると、ユーロ/スイスが急上昇した。ユーロ高・スイスフラン安につれる形でユーロ/円は110.59円まで上昇したが、その後米7月ISM非製造業景況指数の悪化を受けてNYダウ平均株価が下げ幅を拡大すると109.56円まで反落した。(②)</p>
<p><b>8/4</b> Thursday</p>	<p>本邦当局が円売り・ドル買い介入を実施。日銀も、5日までの予定の金融政策決定会合を1日に短縮して、10兆円規模の追加緩和策を発表した。欧州時間まで断続的に介入が行われた事から、円全面安の展開となり、ユーロ/円は114.16円の高値を付けた。(③)しかし、その後欧州中銀(ECB)理事会後の会見で、トリシェ総裁が「ユーロ圏の景気は第2四半期に減速」などと発言した事に加え、6ヵ月物オペを導入し無制限資金供給を行う事を発表すると、ユーロ売りが優勢となった。さらにその後、世界的な景気減速懸念からNYダウ平均株価が500ドルを超える大幅下落となると、ユーロ/円は111.28円まで下落した。</p>
<p><b>8/5</b> Friday</p>	<p>米7月雇用統計の好結果を受けて時間外のNYダウ先物が一時急騰すると、ユーロ/円は112.23円まで上昇した。しかしその後、格付け会社S&amp;Pによる米国債格下げの噂が拡がるとNYダウ平均株価が急落しユーロ/円も111.00円まで下落した。ただ、その後一部通信社が「ベルルスコーニ伊首相がさらなる改革の実行を約束すれば、欧州中銀(ECB)はイタリアとスペインの国債を買い入れる準備がある」と報じると、再びユーロ買いが優勢となった。さらにその後、ベルルスコーニ伊首相が「2013年に債務均衡を達成するため、緊縮財政プログラムの改革を受け入れる方針」などと発言すると、ユーロ/円は112円台を回復した。(④)</p>

巻末の特記事項を必ずお読みください。

## EUR/JPY

## 上昇要因(ユーロ高・円安)

- ・ユーロ圏インフレ懸念による追加利上げ観測
- ・ギリシャ・ポルトガル・スペインなど一部のユーロ加盟国の財政問題の緩和
- ・日銀による追加緩和への期待
- ・(本邦及びG7による)円売り介入
- ・原油など資源価格の上昇
- ・主要国株価の上昇

## 下落要因(ユーロ安・円高)

- ・ユーロ圏インフレ懸念による利上げ観測後退
- ・ギリシャ・ポルトガル・スペインなど一部のユーロ加盟国の財政問題  
→欧州金融機関に対する懸念
- ・原油など資源価格の下落
- ・主要国株価の下落

## 今週の見通し

先週のユーロ/円相場は108.71～114.16円のレンジで推移し、週間の終値ベースでは、約1.4%の上昇(ユーロ高・円安)となった。本邦当局による円売り介入という「人為的」な押し上げにより、主要国の株価や原油価格などは軒並み下落したにもかかわらず、先週のユーロ/円は上昇した。

今週のユーロ/円相場は、①本邦当局による介入効果がどこまで持続するか、②欧州債務問題の拡大に歯止めがかかるか、③米国の格下げや景気減速懸念による株価の下落圧力が和らぐか、などが焦点となる。①については、4日の介入額が推定4兆5000億円にのぼっており、費用対効果を考えると一段の介入には慎重にならざるを得ないだろう。8日朝の7カ国財務相・中銀総裁による緊急声明でも「市場において決定される為替レートを我々が支持することを再確認した」と、日本の介入を暗に批判するような内容となっている。②については、欧州中銀がイタリアやスペインの国債を市場で購入するとの見通しが強まっており、債務不安国の長期金利低下が安心感につながる可能性がある一方で、これらの国が緊縮財政を迫られた結果、ユーロ圏全体に景気減速懸念が台頭しかねない状況にある。③については、9日の米連邦公開市場委員会(FOMC)で、追加緩和などの新たな刺激策への言及がなければ、米国株が一段安となる可能性も否定できない。今週のユーロ/円相場は、多数の懸念材料を背景に上値が重く、下落リスクを孕んでの不安定な取引となりそうだ。(神田)

(予想レンジ:108.20～114.00円)

# EUR/USD

## ユーロ/ドル 8/1~5までの主な推移



<p><b>8/1</b> Monday</p>	<p>英7月PMI製造業の大幅悪化をきっかけとしたユーロ/ポンドの上昇につれて、ユーロ/ドルは1.4452ドルの高値を付けた。しかしその後、欧州時間に入ると、債務不安を背景にイタリアやスペインの国債利回りが上昇した事を嫌気してユーロ売りが優勢となった。さらにその後米7月ISM製造業景況指数が50.9と予想(54.5)を大きく下回った事を受けて、米国景気の減速懸念が強まると、堅調に推移していたNYダウ平均株価が急落。ユーロ/ドルは1.4183ドルまで大幅に下落した。(①)</p>
<p><b>8/2</b> Tuesday</p>	<p>債務不安を背景にイタリアやスペインの国債利回りが上昇し、ドイツ10年物国債との利回り格差が拡大した事や、スイス6月小売売上高が予想を大幅に上回った事を受けて、ユーロ/スイスが史上最安値を更新して下落。ユーロ安・スイスフラン高につれる形で、ユーロ/ドルは1.4150ドルまで下落した。(②)</p>
<p><b>8/3</b> Wednesday</p>	<p>スイス中銀が緊急利下げを発表し、スイスフラン高に対する強い懸念を表明すると、ユーロ/スイスが急上昇した。これにつれてユーロ/ドルは上昇。さらにユーロ圏6月小売売上高が前月比+0.9%と予想(+0.5%)を上回った事も材料視され、1.4343ドルまで上値を伸ばした。(③)</p>
<p><b>8/4</b> Thursday</p>	<p>本邦当局が円売り・ドル買い介入を実施すると、ドル買いの影響からユーロドルはじり安で推移。さらにその後、欧州中銀(ECB)のトリシェ総裁が理事会後の会見で「ユーロ圏の景気は第2四半期に減速」などと発言した事に加え、6ヵ月物オペを導入し無制限資金供給を行う事を発表すると、ユーロ売りが優勢となった。また、世界的な景気減速懸念からNYダウ平均株価が500ドルを超える大幅下落となると、ユーロ/ドルは1.4093ドルまで下落した。(④)</p>
<p><b>8/5</b> Friday</p>	<p>格付け会社S&amp;Pによる米国債格下げの噂が拡がると、ドル売りが優勢となり、ユーロ/ドルは上昇した。その後一部通信社が「ベルルスコーニ伊首相がさらなる改革の実行を約束すれば、欧州中銀(ECB)はイタリアとスペインの国債を買い入れる準備がある」と報じると、ユーロ買いが加速。さらにその後、ベルルスコーニ伊首相が「2013年に債務均衡を達成するため、緊縮財政プログラムの改革を受け入れる方針」などと発言すると、ユーロ/ドルは1.4297ドルまで上値を伸ばした。(⑤)</p>

巻末の特記事項を必ずお読みください。



# EUR/USD

## 上昇要因(ユーロ高・ドル安)

- ・ユーロ圏インフレ懸念による追加利上げ観測
- ・ユーロ圏重債務国の財政問題の緩和
- ・米連邦債務上限引き上げ問題の混迷
- ・米国の超低金利長期化観測
- ・原油など資源価格の上昇
- ・主要国株価の上昇

## 下落要因(ユーロ安・ドル高)

- ・ユーロ圏インフレ懸念による利上げ観測の後退
- ・ユーロ圏重債務国の財政問題  
→欧州金融機関に対する懸念
- ・米連邦債務上限引き上げ合意観測
- ・ドル金利の先高観
- ・原油など資源価格の下落
- ・主要国株価の下落

## 今週の見通し

先週のユーロ/ドル相場は1.4054～1.4452ドルのレンジで推移し、週間の終値ベースでは約0.7%の下落(ユーロ安・ドル高)となった。欧州債務懸念がスペインやイタリアへ飛び火しつつあり、両国の10年債利回りは、持続不能とされる7%の水準に近付いた。一方で、米国では債務上限の引き上げと同時に財政赤字削減策も導入されたため景気減速懸念が強く意識され始めているうえに、前週末には米国債の格下げが発表された。ユーロとドルの双方ともに売り材料には事欠かない状況ではあるが、8日早朝には、欧州中銀(ECB)が「ECBは債券買い入れプログラムを積極的に実行する」との声明を発表し、イタリアやスペインの国債を流通市場で買い支える事を示唆した。目的的にはこれらの国の国債利回り低下がユーロ買い材料となる可能性が高そうだ。ただ、イタリアは、ECBによる国債買い入れと引き換えに追加の緊縮財政措置を余儀なくされるなど、加盟国の多くが赤字削減を優先した結果、ユーロ圏の景気回復を阻害する可能性も否めない。主要国の株価や原油価格などが軟調に推移している事もあって、一方的にユーロが上昇する事も考えにくい。今週のユーロ/ドル相場は、双方の弱気材料の綱引きで方向感に乏しい展開が続きそうだ。(神田)

(予想レンジ:1.4050～1.4550ドル)

# GBP/JPY

## ポンド/円 8/1~5の主な推移



<p><b>8/1</b> Monday</p>	<p>9時40分にオバマ米大統領が会見を行い、民主・共和両党の指導部が連邦債務上限引き上げと財政赤字削減で合意に達したことを明らかにした。これを受けて日経平均が上昇すると、ポンド/円も連れ高となり、128.48円まで上昇した。しかし、128円台での上値は重く、すぐに上げ幅を縮小。さらに夕方、17時28分に発表された英7月PMI製造業(市場予想:51.0)が49.1と好況・不況の境目とされる50を下回る弱い結果になったことでポンド売りは加速。その後、米7月ISM製造業景況指数が50.9と予想(54.5)を大幅に下回り、NYダウ平均が大きく下げると、124.18円の安値をつけた(①)。ただ、NY市場中盤に日経新聞が電子版で「政府が円高是正へ介入準備」「日銀は追加金融緩和に向け調整」等と伝え、円売りが強まり、ポンド/円は下げ幅を縮小し</p>
<p><b>8/2</b> Tuesday</p>	<p>夕方、スペインおよびイタリアの国債利回りとドイツの国債利回りの格差が拡大したことを背景にユーロ/円が値を下げると、ポンド/円も125.50円台まで連れ安となった(②)。その後、英7月PMI建設業が53.5と予想(53.1)を上回ると、126.00円前後まで小反発したが、NYダウが大幅に下落する中、米国市場ではジリジリと値を下げた。</p>
<p><b>8/3</b> Wednesday</p>	<p>16時頃、スイス中銀が緊急利下げを発表すると、ポンド/スイスフランでスイスフラン安・ポンド高が進行。これに連れてポンド/円でもポンド高が進んだ。さらに、17時28分頃に発表された英7月PMIサービス業が55.4と予想(53.2)を上回ると、ポンド/円は126.58円まで上昇した(③)。ただその後は上値が抑えられ、NYダウ平均が大幅安となる中で上げ幅を縮小した。</p>
<p><b>8/4</b> Thursday</p>	<p>本邦当局が円売り・ドル買い介入を行うと、ポンド/円も連れ高となり、17時過ぎに130.80円の高値をつけた(④)。しかし、欧州中銀が6カ月物資金供給オペの導入を発表し、ユーロ/円が大きく値を下げるとポンド/円も下落。さらに、米国市場でNYダウ平均が寄り付きから大幅に下落し、引けにかけて500ドル超の大幅安となるとポンド/円は一段安となり、128.00円まで値を下げた。なお、イングランド銀行(BOE)は金融政策の据え置きを発表したが、大方の予想通りだったことから相場の反応は見られなかった。</p>
<p><b>8/5</b> Friday</p>	<p>アジア株が大きく値を下げる中、ポンド/円は127.39円まで下落した。21時30分に発表された米7月雇用統計は失業率9.1%(予想:9.2%)、非農業部門雇用者数は11.7万人増(同:8.5万人増)と予想よりも良好な結果になり、時間外のNYダウ平均先物が上昇すると、ポンド/円は上昇に転じた(⑤)が、「格付け会社S&amp;PがNY株引け後に米国を格下げする可能性がある」との噂が広がるとNYダウ平均が急落し、ポンド/円の上値は抑えられた。</p>

巻末の特記事項を必ずお読みください。

## GBP / JPY

## 上昇要因(ポンド高・円安)

- ・英国経済の景気回復期待
- ・日銀の追加緩和観測
- ・英国の早期利上げ観測
- ・保守党主導による英財政赤字の削減期待
- ・(本邦及びG7による)円売り介入

## 下落要因(ポンド安・円高)

- ・英国の財政悪化懸念
- ・BOEの資産買い入れ再拡大観測
- ・保守-自民連立政権の不協和音
- ・英景気の腰折れ懸念

## 今週の見通し

先週のポンド/円相場は124.18～130.80円のレンジで推移し、週間の終値ベースでは約1.8%の上昇(円安・ポンド高)となった。週初は軟調に始まるも、4日の本邦政府・日銀による円売り・ドル買い介入で急騰したドル/円に連れてポンドは一時131円に迫る上昇となった。しかし、欧米株の下落などを背景に上げ幅を縮小。週を通してみると小幅高、という流れになった。

先週のポンド/円は円売り介入によって押し上げられはしたものの、今週も引き続き欧米株が軟調な展開となれば、下向きの圧力が掛かりやすい。とはいえ、本邦政府・日銀による円売り介入の可能性は常に意識され、ポンド/円の下値を支える公算が大きい。従って、今週のポンド/円は上下ともに動き辛い展開になりそうだ。

ただ、英国で10日に発表されるイングランド銀行(BOE)の四半期インフレレポートには要注目だ。5月報告では「成長見通しは2月報告よりも弱い」「直近の消費者物価指数(CPI)見通しは2月報告より著しく高い」などと、金融政策の方向性の判断が難しい結果となったが、発表後にキングBOE総裁がインフレを警戒する発言をしたことで、この日は大幅にポンド高が進んだ。今回も5月報告からの内容に著しい変化があった場合や、その後の要人発言に目新しいものがあれば、ポンド/円が大幅に動くこともあり得るだろう。(ジェルベズ)

(予想レンジ:124.00～131.00円)

巻末の特記事項を必ずお読みください。

## GBP/USD

## ポンド/ドル 8/1~5の主な推移



<p><b>8/1</b> Monday</p>	<p>9時40分にオバマ米大統領が会見を行い、民主・共和両党の指導部が連邦債務上限引き上げと財政赤字削減で合意に達したことを明らかにした。これを受けて日経平均株価が上昇すると、ポンド/ドルは1.6473ドルまで上昇した。しかし、その後は上値の重い展開。さらに夕方、17時28分頃に発表された英7月PMI製造業(市場予想:51.0)が49.1と好況・不況の境目とされる50を下回る弱い結果になったことでポンドは大きく下落。その後、イタリアやスペインの国債利回りが上昇し、ユーロ/ポンドでポンド高が進み、一旦は1.64ドル台半ばまで反発するも、欧米株が軟調に推移する中で大きく値を下げ、1.6236ドルの安値をつけた(①)。</p>
<p><b>8/2</b> Tuesday</p>	<p>夕方、スペインおよびイタリアの国債利回りドイツの国債利回りの格差が拡大したことを背景にユーロ/ドルが大幅に値を下げると、ポンド/ドルも連れ安となった。英7月PMI建設業が53.5と予想(53.1)を上回ると、一旦は下げ止まったが、NY市場に入りユーロ/ドルが一段安になると、ポンド/円は1.6223ドルの安値をつけた(②)。</p>
<p><b>8/3</b> Wednesday</p>	<p>16時頃、スイス中銀が緊急利下げを発表すると、ポンド/スイスフランでスイスフラン安・ポンド高が進行。これに連れてポンド/ドルでもポンド高が進んだ。さらに、17時28分頃に発表された英7月PMIサービス業が55.4と予想(53.2)を上回ると、ポンド/ドルは1.64ドル台に乗せた。1.64ドル前後では上値の重さも見られたが、序盤に大幅安となっていたNYダウ平均が引けにかけて下げ幅を圧縮すると、ポンド/ドルは上値を伸ばした(③)。</p>
<p><b>8/4</b> Thursday</p>	<p>本邦当局が円売り・ドル買い介入を行うと、ポンド/ドルでもドル買い優勢となり、朝からドル高が進行し、19時過ぎに1.63ドルを割り込んだ。一旦1.63ドル台後半まで値を戻す場面も見られたが、米国市場でNYダウ平均が寄り付きから大幅に下落し、引けにかけて500ドル超の大幅安となる中でポンド安・ドル高の流れは続き、1.62ドル台半ばまで値を下げた(④)。なお、イングランド銀行(BOE)は金融政策の据え置きを発表したが、大方の予想通りだったことから相場の反応は見られなかった。</p>
<p><b>8/5</b> Friday</p>	<p>前日のポンド安・ドル高の流れを引き継ぎ、朝に1.6227ドルの安値をつけたが、その後は一旦反発。21時30分に発表された米7月雇用統計は失業率9.1%(予想:9.2%)、非農業部門雇用者数は11.7万人増(同:8.5万人増)と予想よりも良好な結果になり、時間外のNYダウ平均先物が上昇すると、ポンド/ドルも上昇した(⑤)。ただし、「格付け会社S&amp;PがNY株引け後に米国を格下げする可能性がある」との噂が広がるとNYダウ平均が急落し、ポンド/ドルの上値は抑えられた。</p>

巻末の特記事項を必ずお読みください。



# GBP/USD

## 上昇要因(ポンド高・ドル安)

- ・米経済先行き懸念の緩和  
→リスクを取ることへの積極性が増す
- ・英国の早期利上げ観測
- ・保守党主導による英財政赤字の削減期待
- ・中東情勢の悪化懸念

## 下落要因(ポンド安・ドル高)

- ・英国の財政悪化懸念
- ・BOEの資産買い入れ再拡大観測
- ・BOEの新たな金融緩和策への期待
- ・保守-自民連立政権の不協和音
- ・英景気の腰折れ懸念

## 今週の見通し

先週のポンド/ドル相場は1.6223~1.6473ドルのレンジで推移し、週間の終値ベースでは約0.1%の下落(ドル高・ポンド安)。米債務上限引き上げ問題の混迷を受けたドル安が進む一方、欧米株が下落したことを受けてポンドが下げるなど乱高下し、週を通してみるとほとんど横ばい、という展開だった。今週の英国および米国では、先週ほどではないものの重要な経済イベントが複数予定されている。それぞれの内容を確認し、ポンド/ドルは引き続き方向感を模索する展開になりそうだ。

英国では9日に6月鉱工業生産や商品貿易収支、10日にはイングランド銀行(BOE)の四半期インフレレポートの発表が予定されている。インフレレポートについては、5月報告では「成長見通しは2月報告よりも弱い」「直近の消費者物価指数(CPI)見通しは2月報告より著しく高い」などと、金融政策の方向性の判断が難しい結果となった。ただ、発表後にキングBOE総裁がインフレを警戒する発言をしたことで、この日は大幅にポンド高に振れた。今回も発表後の要人発言と併せ、5月報告からの内容の変化に注目したい。一方、米国については、9日に米連邦公開市場委員会(FOMC)が声明発表を行う。金融政策の変更はないとの見方が大勢だが、声明文において景気判断が下方修正されていたり、今後の量的緩和第3弾(QE3)の可能性について示唆があれば、ポンド/ドルはドル売り優勢となりそうだ。また、米国では11日発表の6月貿易収支や週次の新規失業保険申請件数、12日発表の7月小売売上アかや8月ミシガン大消費者信頼感指数・速報値、米国債入札(9日:3年債、10日:10年債、11日:30年債)等も手掛かり材料となってくる見通しだ。(ジェルベズ)

(予想レンジ:1.6180~1.6600ドル)

## 経済指標カレンダー (8/8~10)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
8/8	08:50		(日) 6月貿易収支	-7727億円	+1131億円
(月)	14:00		(日) 7月景気ウォッチャー調査 [現状判断DI]	49.6	50.0
	14:00		(日) 7月景気ウォッチャー調査 [先行き判断DI]	49.0	—
	14:00		(日) 8月金融経済月報・基本的見解	—	—
8/9			南ア休場(ウーマンズ・デー)		
(火)	08:50		(日) 7月マネースtockM2+CD [前年比]	+2.9%	+2.9%
	10:30	◎	(中) 7月消費者物価指数[前年比]	+6.4%	+6.4%
	10:30	○	(中) 7月生産者物価指数[前年比]	+7.1%	+7.5%
	11:00	○	(中) 7月鉱工業生産[前年比]	+15.1%	+14.7%
	11:00	○	(中) 7月小売売上高[前年比]	+17.7%	+17.7%
	15:00		(独) 6月経常収支	+69億EUR	—
	15:00		(独) 6月貿易収支	+148億EUR	+140億EUR
	17:30	○	(英) 6月鉱工業生産 [前月比]	+0.9%	+0.4%
	17:30		(英) 6月製造業生産高 [前月比]	+1.8%	+0.2%
	17:30		(英) 6月商品貿易収支	-84.78億GBP	-8100億GBP
	21:15		(加) 7月住宅着工件数	20.08万件	19.32万件
	21:30		(米) 第2四半期単位労働費用 [前期比]	+0.7%	+2.3%
	21:30		(米) 第2四半期非農業部門労働生産性 [前期比]	+1.8%	-0.8%
	26:00	○	(米) 3年債入札(320億ドル)	—	—
	27:15	◎	(米) FOMC政策金利発表	0.00-0.25%	—
8/10	08:50		(日) 日銀金融政策決定会合議事要旨 (7月11・12日分)	—	—
(水)	11:00	○	(中) 7月貿易収支	+222.7億USD	+270億USD
	15:00		(独) 7月消費者物価指数・確報 [前月比]	+0.4%	+0.4%
			(独) 7月消費者物価指数・確報 [前年比]	+2.4%	+2.4%
	18:30	◎	(英) BOE四半期インフレレポート	—	—
	23:00		(米) 6月卸売在庫 [前月比]	+1.8%	+1.0%
	26:00	○	(米) 10年債入札(240億ドル)	—	—
	27:00	○	(米) 7月月次財政収支	-431億USD	-1400億USD

巻末の特記事項を必ずお読みください。

## 経済指標カレンダー (8/11~12)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
8/11 (木)	08:50		(日) 6月機械受注 [前月比]	+3.0%	+1.8%
			(日) 6月機械受注 [前年比]	+10.5%	+11.3%
	10:30	◎	(豪) 7月新規雇用者数	+2.34万人	—
	10:30	◎	(豪) 7月失業率	4.9%	—
	17:00		(ユーロ圏) ECB月例報告	—	—
	21:30	○	(米) 6月貿易収支	-502億USD	-475億USD
	21:30	◎	(米) 8/5までの週の新規失業保険申請件数	40.0万件	—
	21:30		(加) 6月新築住宅価格指数 [前月比]	+0.4%	—
	21:30		(加) 6月国際商品貿易	-8億CAD	-10億CAD
	26:00	○	(米) 30年債入札(160億ドル)	—	—
8/12 (金)	13:30		(日) 6月鉱工業生産・確報 [前月比]	+3.9%	—
			(日) 6月鉱工業生産・確報 [前年比]	-1.6%	—
	18:00	○	(ユーロ圏) 6月鉱工業生産・季調済 [前月比]	+0.3%	—
	21:30	○	(米) 7月小売売上高 [前月比]	+0.1%	+0.4%
	21:30	○	(米) 7月小売売上高 [前月比: 除自動車]	±0.0%	+0.2%
	22:55	◎	(米) 8月ミシガン大消費者信頼感指数・速報値	63.7	63.7
	23:00		(米) 6月企業在庫 [前月比]	+1.0%	+0.6%

※発表日時は予告なく変更される場合があります。

※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com